

la Isla en Guerra

Sinfonía Visual CCCXLVI



1

Toshio

Sakai

酒井 淑夫











2

Kyoichi
Sawada

澤田教一





















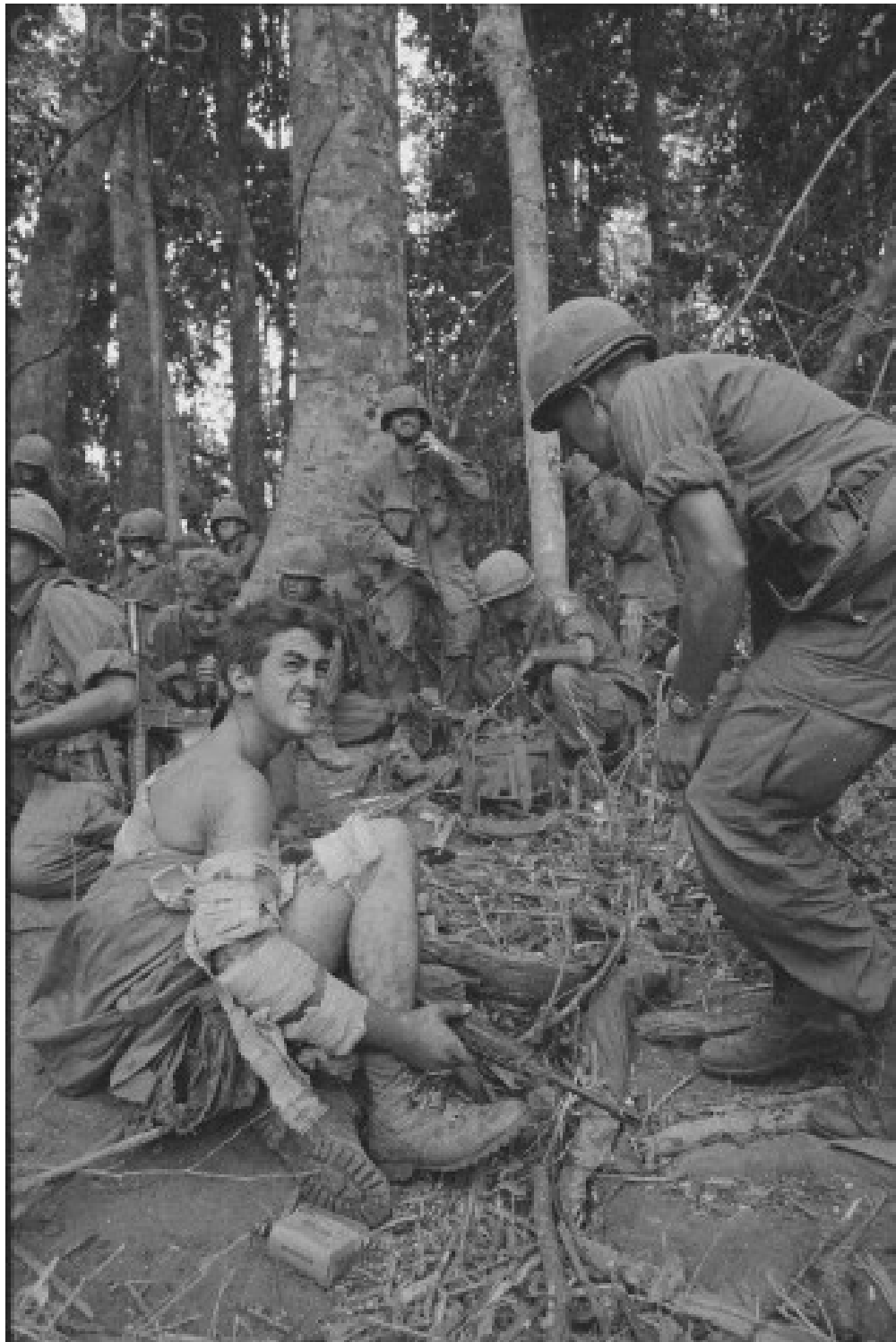










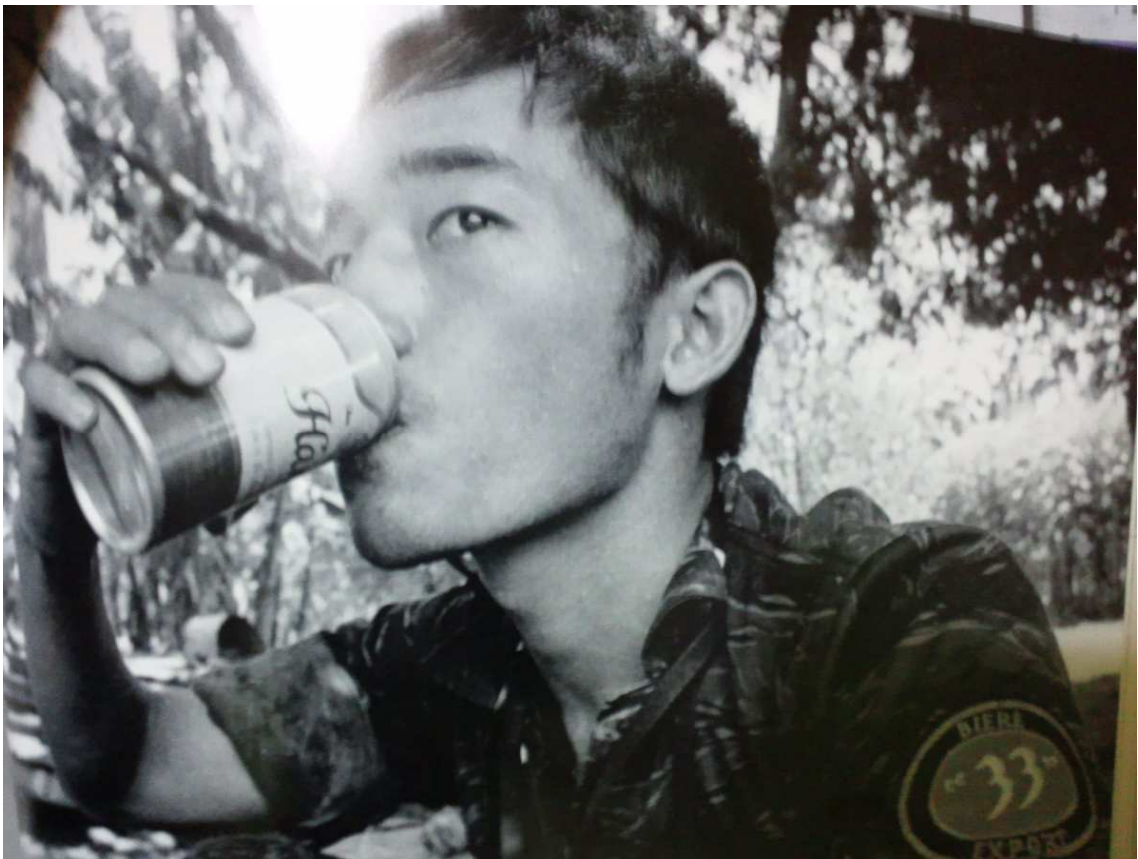








3
Taizo
Ichinose
一ノ瀬 泰造

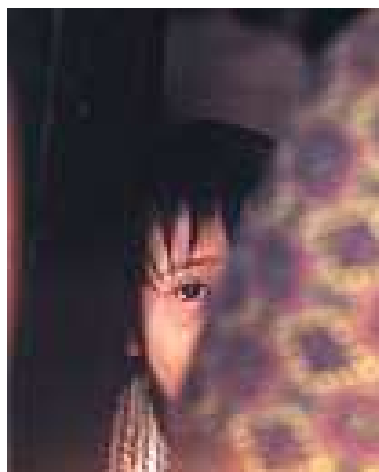












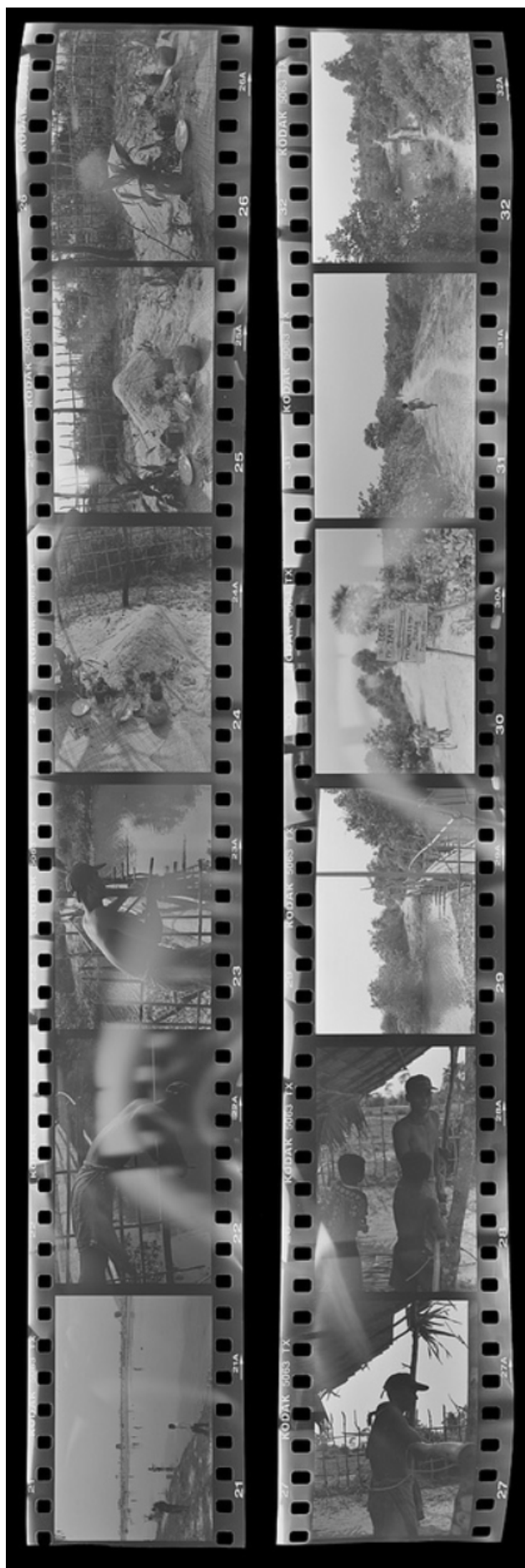












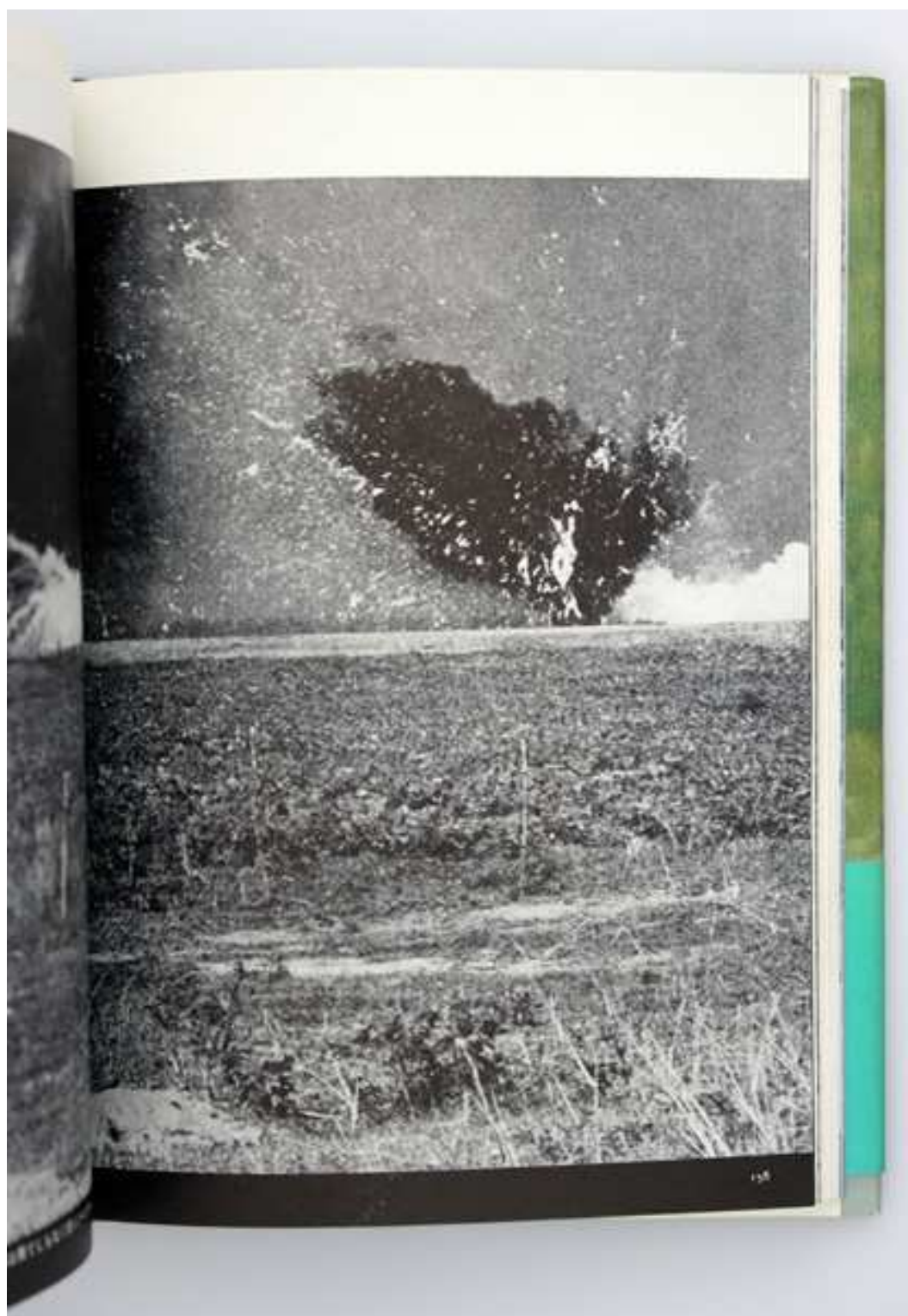
一ノ瀬泰造写真・書簡集

地雷を踏んだら サヨウナラ

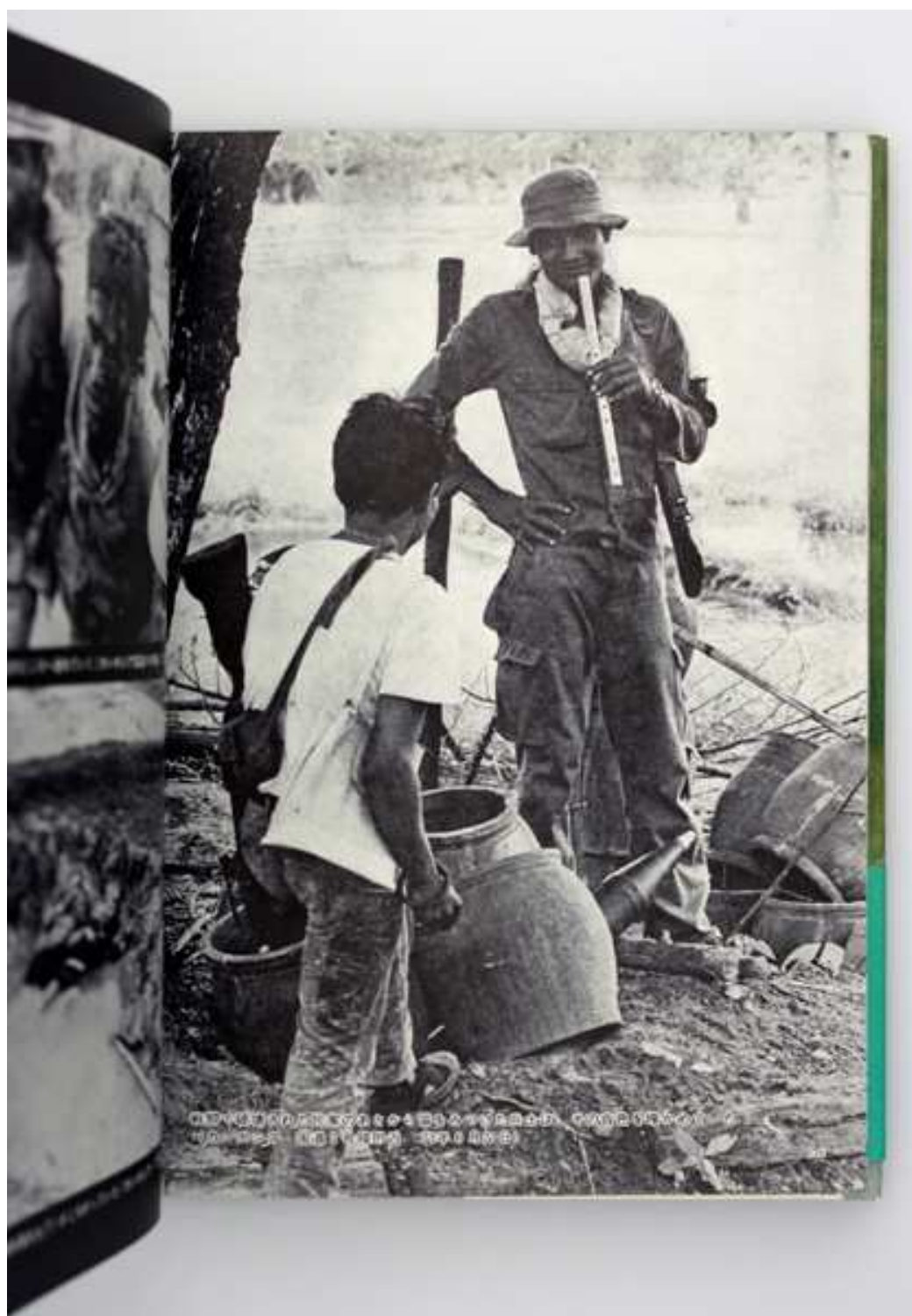
アンコールワットに消えた青春!!

インドシナの激動地帯を駆けめぐり、銃火にさらされながらひたすらシャッターを切りつづけ、'73年11月、最後のターゲットにしたアンコールワットを目指して潜行したまま消息を断った……。

帰ってきたフィルムと書簡・日記に見る
フリーカメラマンの“生きざま”の証明









住民は避難してすでに無人であった（サイゴン南西70キロ・カイヘン町、72年10月6日）

《タクハン川の捕虜釈放》

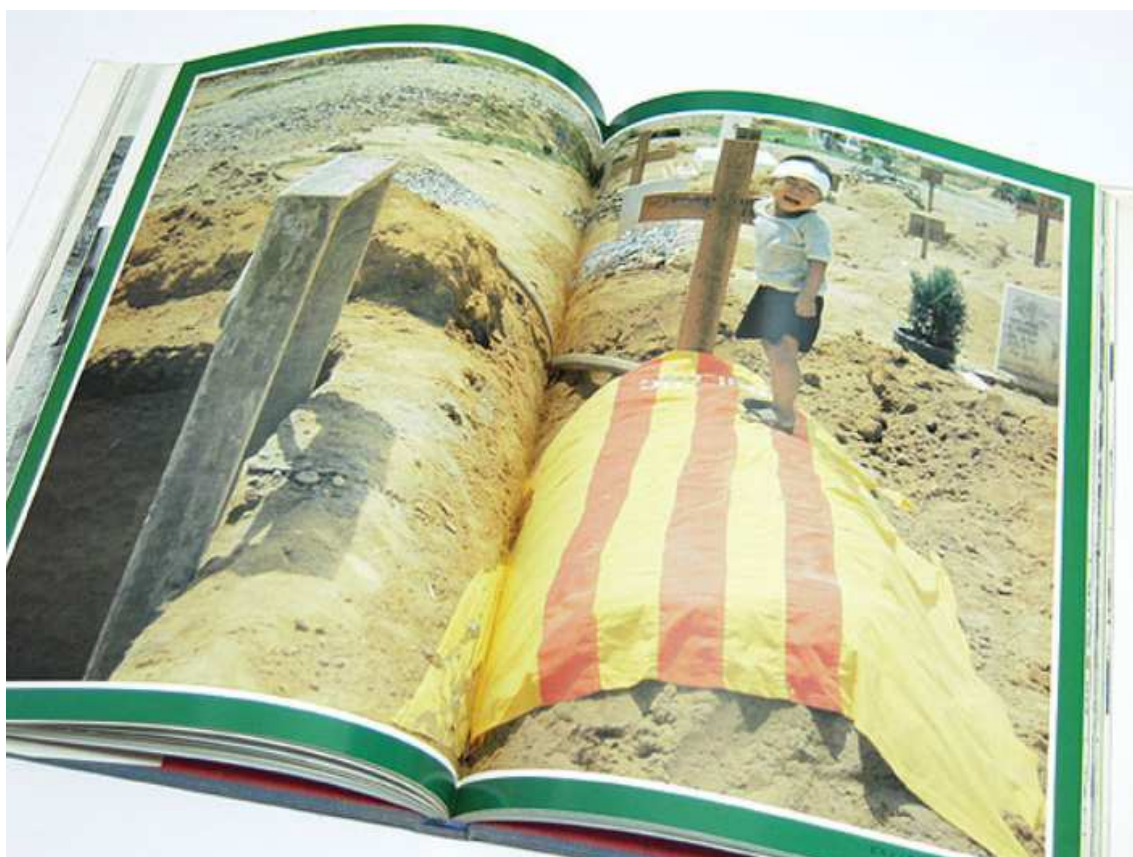
(73年2月18日)



タクハン川の南岸に集められ、「釈放」の時を待つ「ペトコン捕虜」

捕虜たちは収容中に支給された服を脱ぎ捨て、「南」政府の用意した舟に乗り込んだ







高橋健氏の経歴

昭和22年11月1日、佐賀県武雄市生まれ。昭和45年、日本大学芸術学部写真学科を卒業後、JRI（日本通信社）東京支局で働く。

昭和47年3月、カンボジアの戦場に立ち、フリーの戦争カメラマンとしてスタート。その後ベトナム戦争を一年間（昭和47年7月～48年6月）取材。アセビ、グラフ、ワシントンポストなど内外のマスコミで活躍した。昭和48年12月22日か23日、フィリピンコルバートへ単独潜行したまま消息を断っている。当時26歳。

▼開いたままのシャッター

落下傘にはかならず補助パラシュートがついていて、万一、主傘が開かなかったときにはそれを使って危機を避けるようにできている。しかし、フリーのカメラマン、それも外国で、戦場で、一歩ごとに口をひらいた真の仕掛けられたジャングルや、水田や、溪谷や、高層で仕事をする人は、補助パラシュートなしで空中へ飛び出すようなものである。たとえ首都にいてつましやかな甘い生活にひたついても彼の意識はピアノ線の敏感を持たなければならぬ。彼の意識も、眼も、耳も、たとえベッドで寝ているときでも片眼はあけておかなければならないのだから、全身がいっぱい、開きっぱなしのシャッターになっ

ていなければならぬ。そんな曲芸に生きる男たちである。

どこで。

最後に彼の全身は何を見たのだろうか。

（関高健氏のまえがきから）

0072-435516-2253 (0)

1500円

1500円

0072-435516-2253 (0)



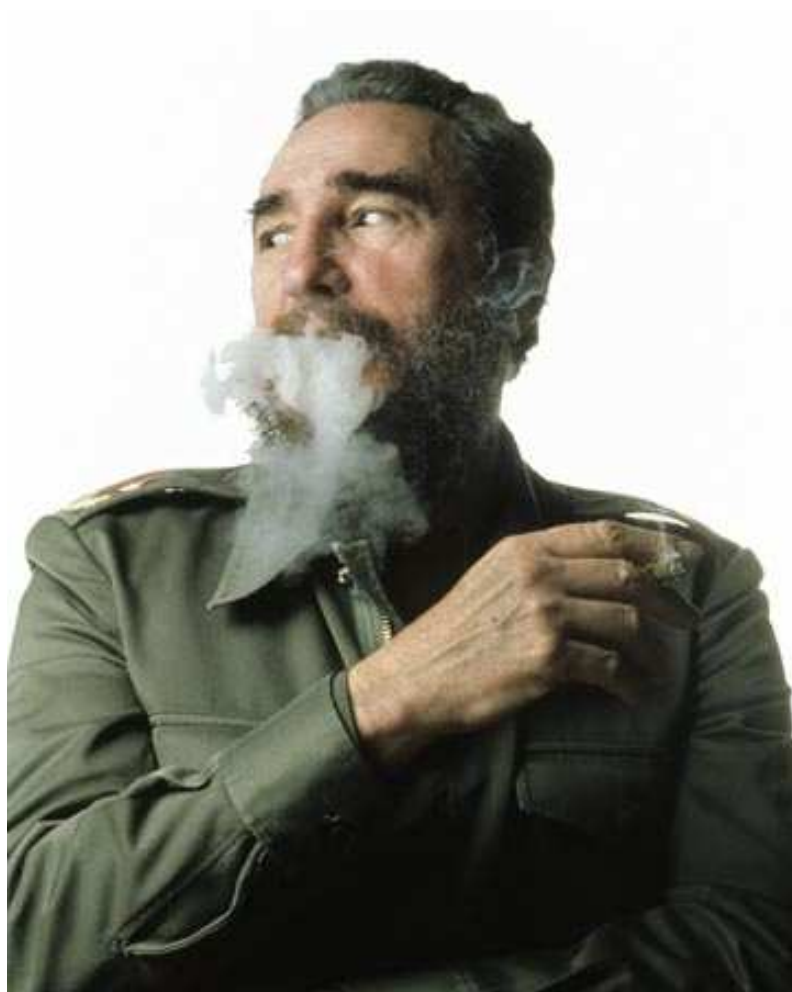


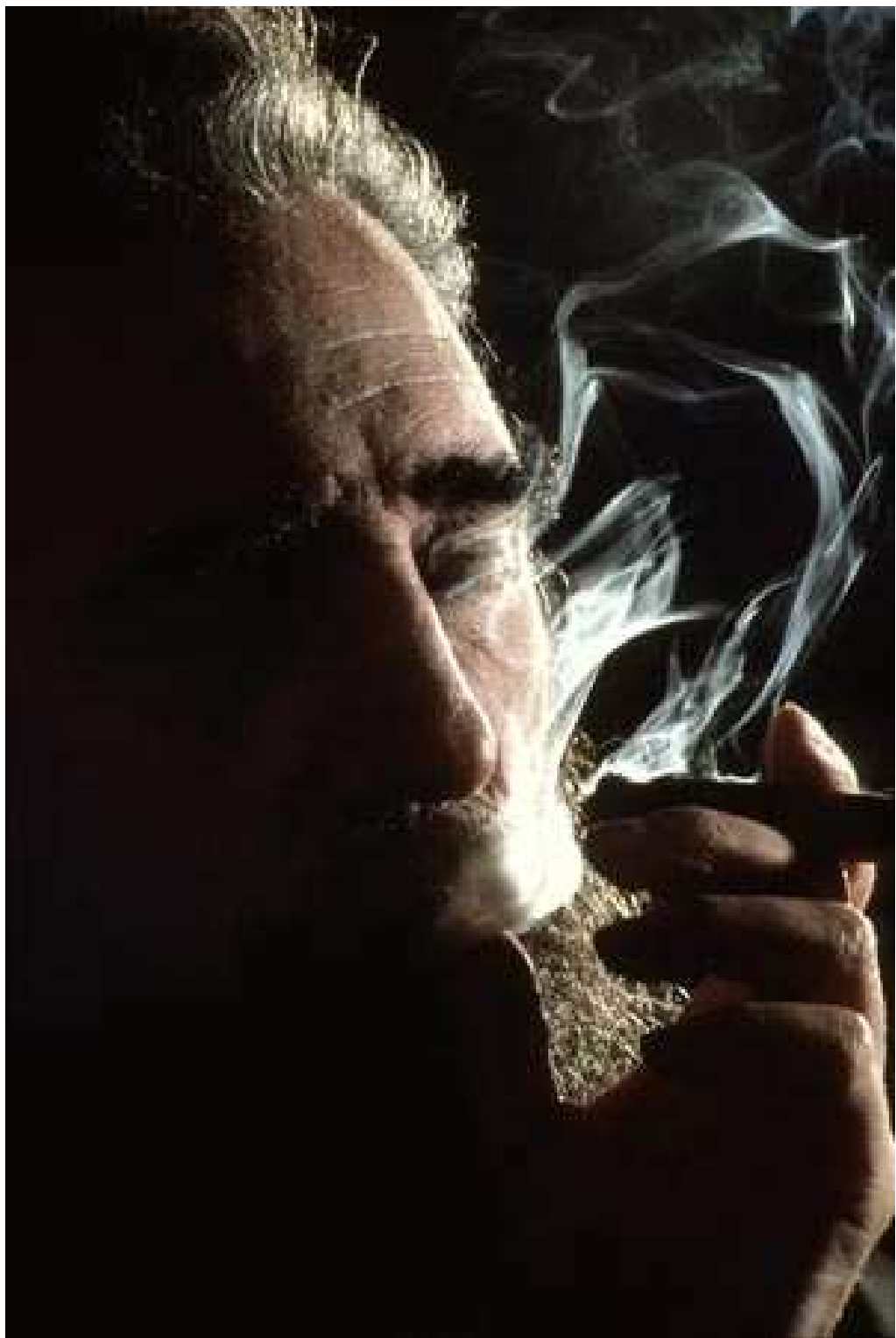
Taizo Ichinose was a Japanese war photographer who attempted to document the Khmer Rouge's atrocities. He was captured by the Khmer Rouge and killed.

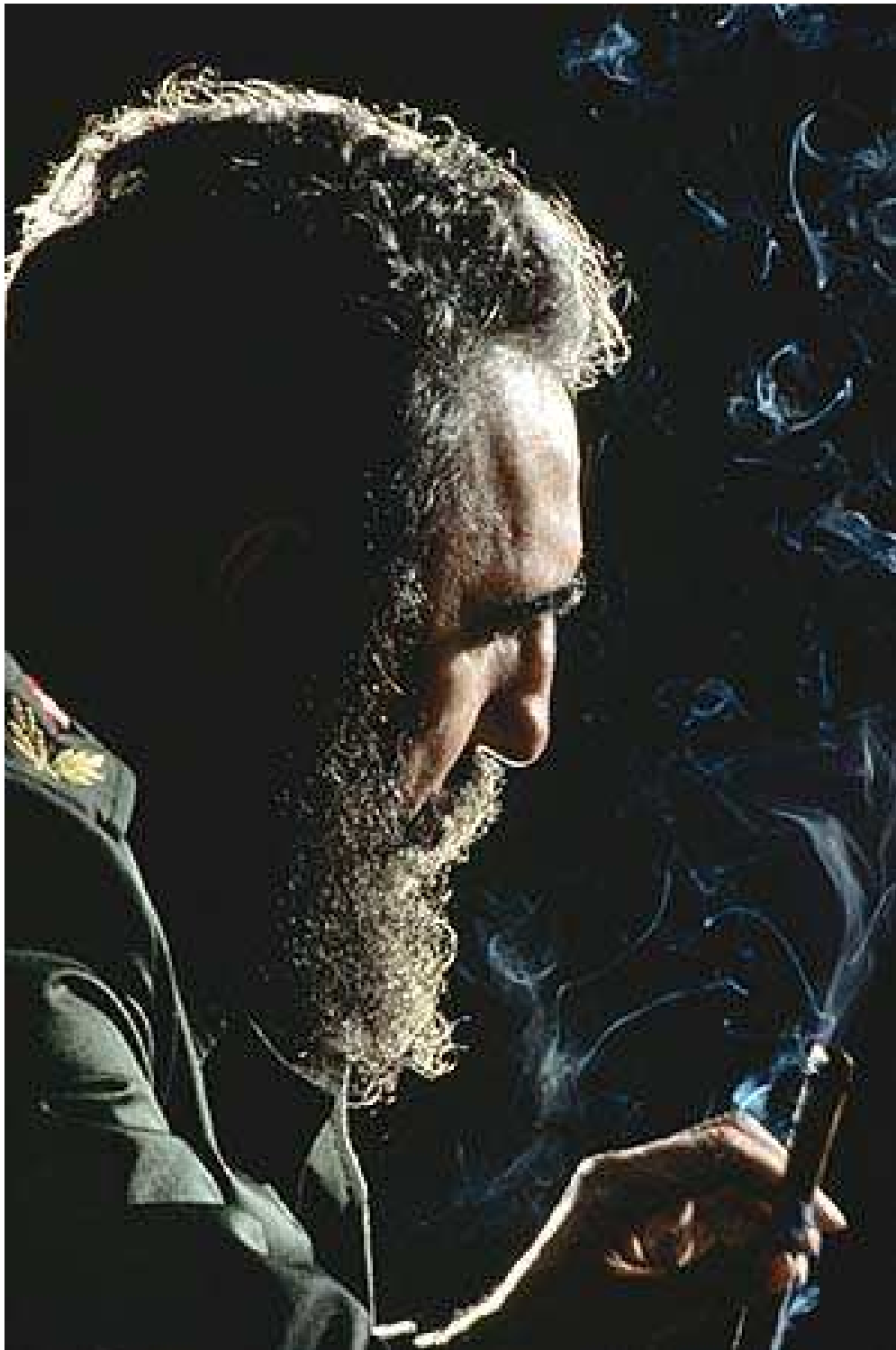
4

Eddie Adams

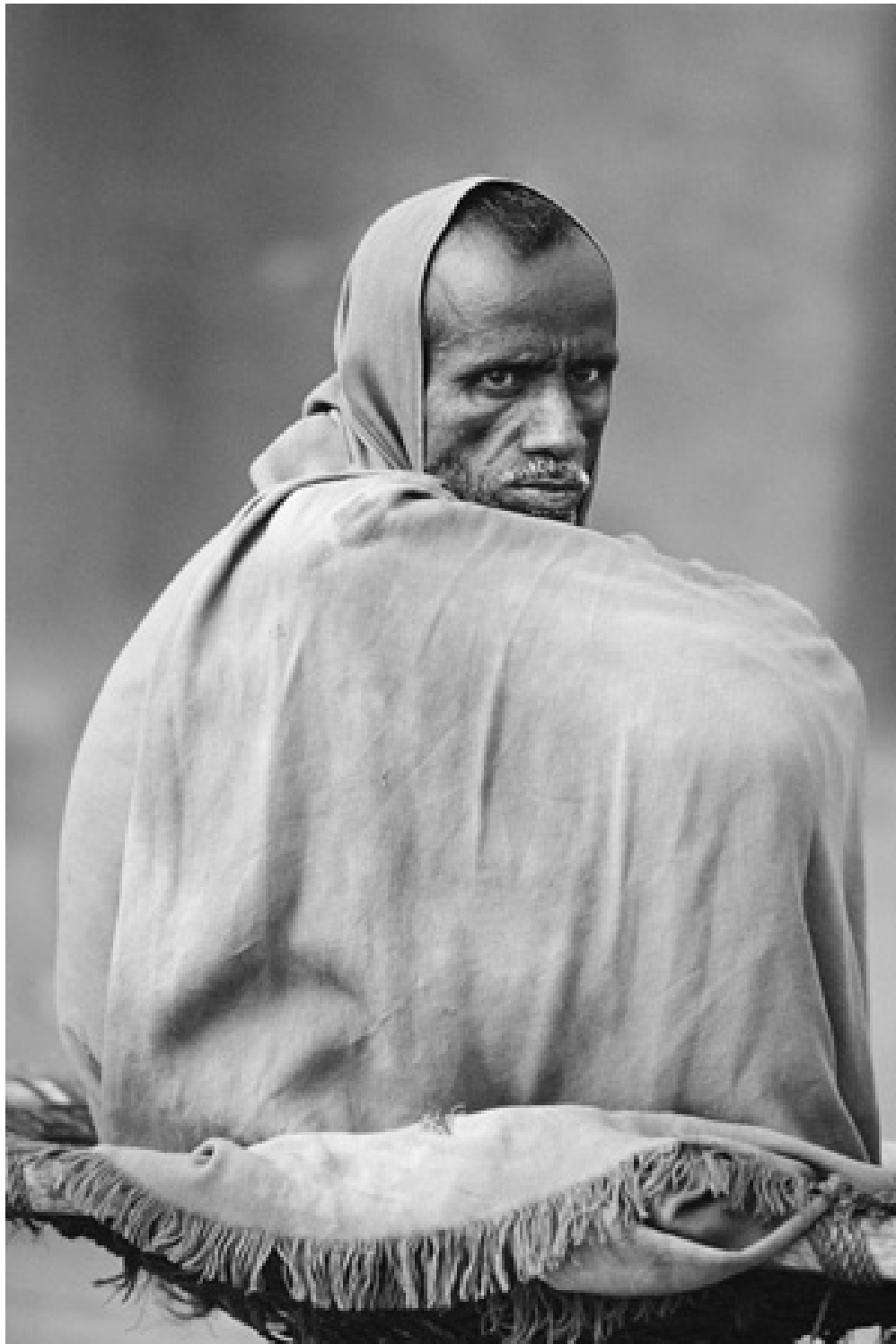








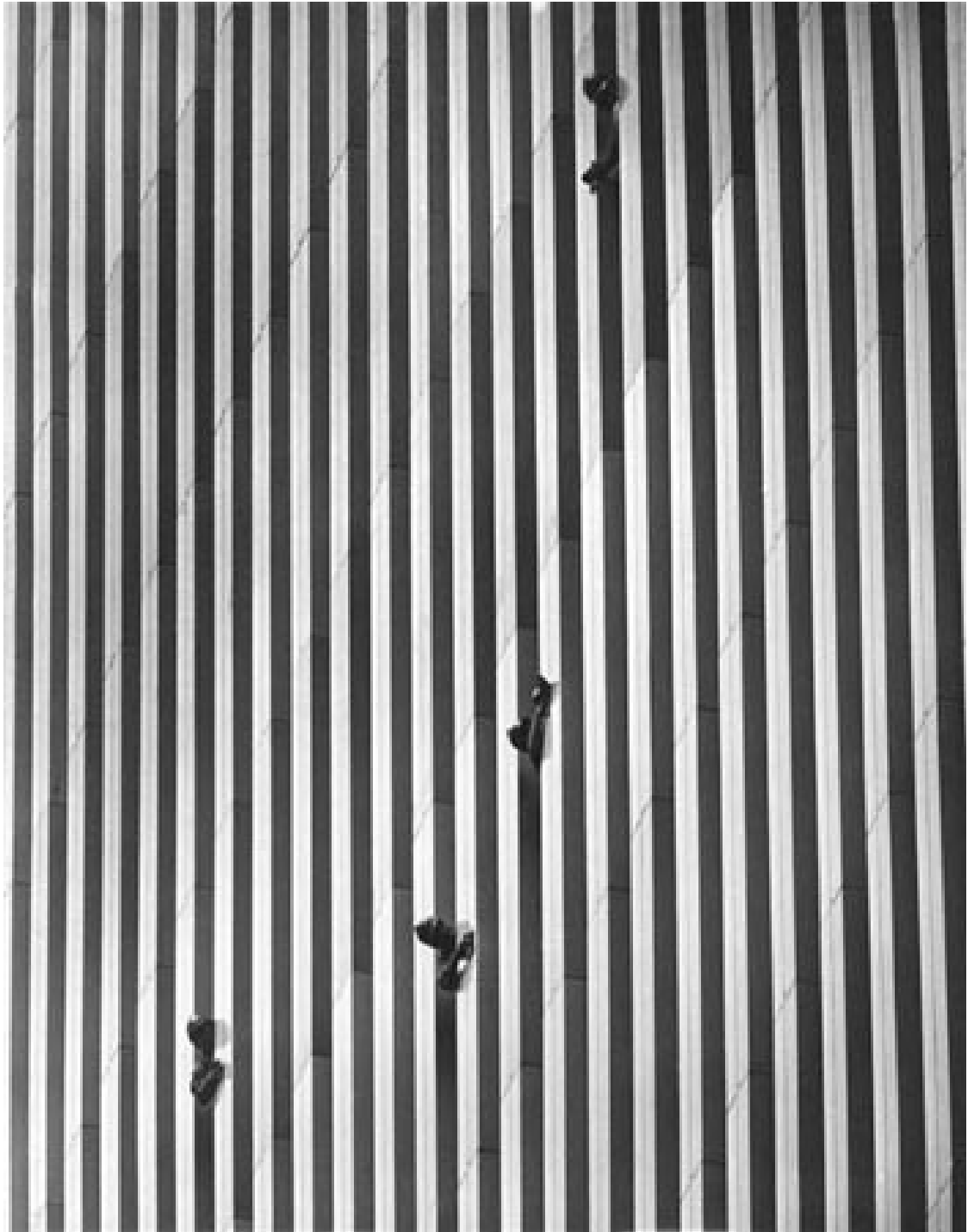
































5

Tamamura Kozaburo

玉村 康三郎





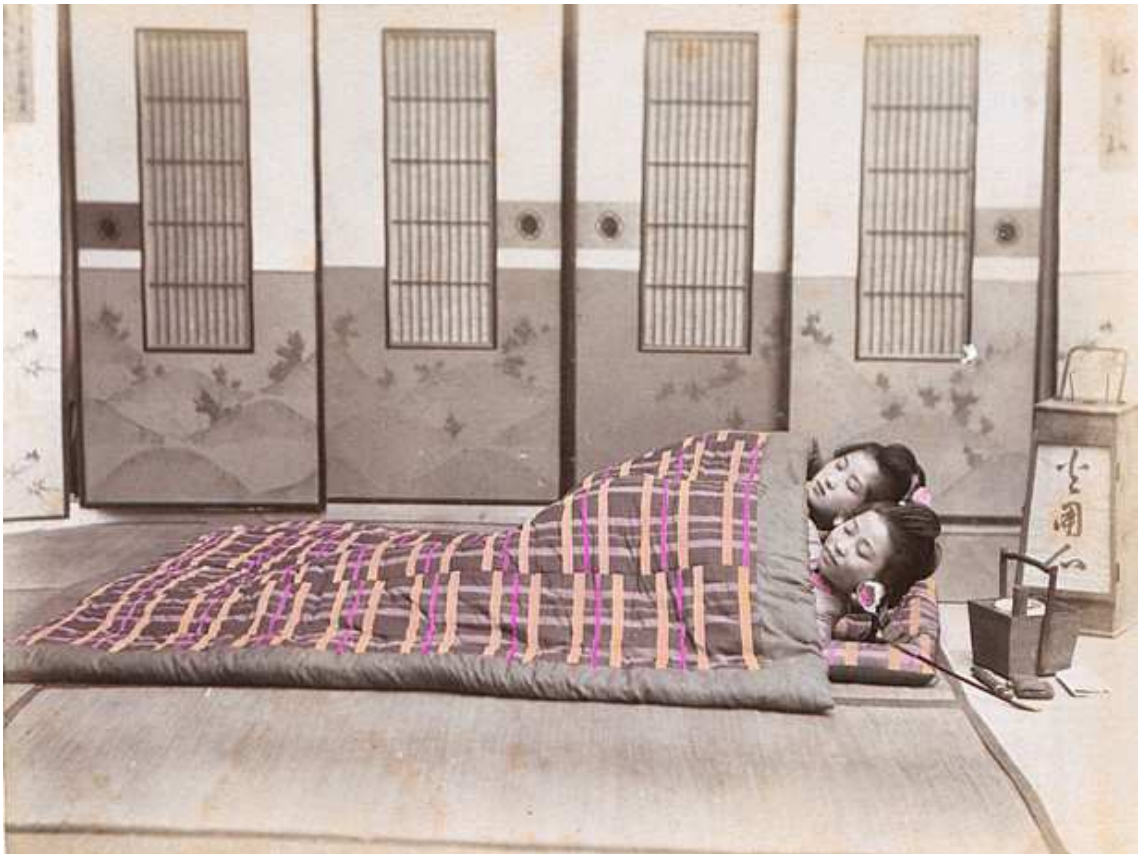






















346 . LA ISLA EN GUERRA			
1	Toshio S akai	CCCXLVI	5
2	Kyoichi S awada	CCCXLVI	26
3	Taizo I chinose	CCCXLVI	34
4	Eddie A dams	CCCXLVI	33
5	Tamamura K ozaburo	CCCXLVI	22
5		24,00	120

<http://es.scribd.com/collections/4401446/Sinfonia-Visual>

<http://es.scribd.com/manuelsusarte>

manuelsusarte@hotmail.com